

法人研修に参加して

平成 29 年 6 月 3 日（土）15：00～17：00 西新宿 A P

「保育園における子育て支援」

～子ども・子育て支援制度に伴って、保育園・保育士の新たな役割～

講師：恵泉女学園大学 学長

NPO 法人あい・ぼーとステーション代表理事

大日向雅美先生

改めて国の子育て支援制度の流れ、少子化対策の歩みを表記されたものをみると自分が子育てしてきた頃と重なります。子育てしながら耳にした少子化、エンゼルプラン、その後の児童手当や高校無償化などは自分の子も提供を受けてきましたが、仕事と生活のバランス、次世代育成支援などはあまり気にかけてがありませんでした。

近年になり少子化対策だけでなく、待機児童の問題が取りただされています。根本にある子どもと子育てを応援する社会ということに関しては子どもと携わる仕事についていながら意識が薄かったと思います。尚徳福祉会に入職し、研修に参加させて頂く中で行政の考えや実践、他方面から見る子育て支援について具体的に知る機会が増えました。しかし、まだまだ社会全体での子育て支援のあり方や地域社会との関わり、仕事と家庭のバランスなどを多くのことを学ばなければならないと痛感しています。また貧困家庭問題についても現状を知り驚いています。私が直接支援できるのは保育園に通う子どもと保護者に対してです。当たり前のことですが子どもも保護者も安心して通ってもらえること、信頼して頂くことが大切と考えています。

大日向先生のお話しにもあったベビーカーを畳んで乗車していた時期の母親が今の母親に対しての厳しい目や言動（私は～してた）はよく耳にする言葉です。しかしそうではなく、「私の時代は畳んで乗車して大変だったけど今はそうしなくても乗車できるようになって良かったね」という気持ち、家でスマホばかりしている母親に対し、育児で家を出るのが大変という状況を察する気持ち、辛い事件になってしまいましたが、ネットで探したベビーシッターに預けなければならなかった母親の環境など、視点を変えた捉え方、想像力が重要になってくることを改めて感じます。自分の中では「親を育てることが必要」と思っていた面もありましたが、親を育てる前に子どもを守る、子どもと一緒に育てることが大切なことと意識が変わってきました。養護施設勤務時代、根底にある子どもの本心は「お父さん、お母さんが大好き」ということを実感してきました。その両親が自分の前で喧嘩したり、暴力をふるったりすることは本当に辛いことです。子どもの本心は大好きで優しいお父さん、お母さんのはずですから…。保育園でお預かりするお子さんはこのような環境とまではいきませんが、今は支援の理由が多様化しています。保護者に寄り添い、保護者が安心して預けられるよう、また、母親の気持ちを汲みながら一緒に保育していきたいと思っています。それが子どもの育ちに繋がります子どもの応援団になれるのだと思います。

大日向先生の“あい・ぼーとステーション”はとても素敵な支援の場で映像からも優しさが感じられました。

研修、そして考える機会をありがとうございました。